



大会日程

大会1日目(10月4日(土))

	人文ホール (1F)	202演習室・204演習室 (2F)	第1講義室 (2F)	第4講義室 (3F)	第2講義室 (2F)	206演習室 (2F)	205演習室 (2F)
10月4日(土)							
9:00	受付 クローク 9:00~18:30						
9:30							
10:00							
10:30		ポスター発表① 10:00~12:00	自主シンポジウム① 大村政男の地域性(県 民性)研究のまとめ 10:00~12:00	国際招待講演 Putting Regional Personality on the Map 10:00~11:30			
11:00							
11:30							
12:00							
12:30		ポスター発表② 12:30~14:30 ★優秀大会発表 候補者発表	展示・ 書籍販売 9:00~ 18:00	シンポジウム① パーソナリティ症 における記憶の歪み 12:20~14:20	休憩室 9:00~ 18:00	ファミリ- スペース 9:00~ 18:00	理事会 12:10~13:10
13:00							
13:30							
14:00							
14:30							
15:00		ポスター発表③ 14:50~16:50	自主シンポジウム② 心理的状況研究の 最前線(4) 14:40~16:40	特別講演 ダンゴムシのこころと 行動抑制ネットワーク理論 14:30~16:00			
15:30							
16:00							
16:30							
17:00							
17:30				総会 17:00~18:00			
18:00							
18:30							

※18:30~ 懇親会 会場: 肉ピストロmatsumotoMt.BARU

大会2日目(10月5日(日))

	人文ホール (1F)	202演習室・204演習室 (2F)	第1講義室 (2F)	第4講義室 (3F)	第2講義室 (2F)	206演習室 (2F)	205演習室 (2F)
10月5日(日)							
9:00	受付 クローク 9:00~16:00						
9:30							
10:00		ポスター発表④ 9:30~11:30	シンポジウム② 仮想空間と パーソナリティ 9:30~11:30	シンポジウム③ 信州における 岳間のススメ 9:30~11:30			
10:30							
11:00							
11:30							
12:00			展示・ 書籍販売 9:00~ 16:00		休憩室 9:00~ 16:00	ファミリ- スペース 9:00~ 16:00	ミドルサイコロジスト プログラム(MPP) 11:45~12:45
12:30		ポスター発表⑤ 12:00~14:00					
13:00							
13:30			自主シンポジウム③ サブカルチャー心理学 への道 13:00~15:00	経常的研究交流委員会 企画シンポジウム 人が他人を助けるとき 13:00~15:00			
14:00							
14:30							
15:00							
15:30							
16:00							

※ヤングサイコロジストプログラム(YPP)

『研究ネットワークを広げようー“これまで”を深め、“これから”を創るー』

日時: 2025年10月3日(金)14:30~17:45(受付:14:00~14:30)

場所: 信州大学松本キャンパス 人文・経法新棟 2階 212 講義室

申込: <https://forms.gle/nCfo7dLakDvKzgdE7>





発表者へのご案内

1. 一般研究発表（ポスター発表）

本大会のポスター発表は、5 セッションです。すべて対面で行います。各セッションのスケジュールは、「大会日程」をご確認ください。

【掲示について】

- ・ ポスター会場のパネル設置面は縦 177cm, 横 86cm です。パネルに収まるのであれば、ポスターのサイズは問いません。ただし、ポスターは、発表タイトル、発表者の氏名と所属、発表内容の情報を含めて作成してください。
- ・ ポスターの最上部に大きく、発表タイトル、発表者の氏名、所属を表記するようにしてください。本文はポスターから離れた位置でも見える大きさにしてください（フォントサイズの指定はありません）。
- ・ 資料等を配布する場合には、各自でご準備ください。コピー機等の用意はありません。
- ・ セッション終了時刻になったら、速やかにポスターを撤去してください。撤去されないまま放置されたポスターは大会準備委員会で処分します。

【発表成立要件】

- ・ 発表受付は不要です。ポスターを掲示し、在席責任時間中ポスターの前で発表し、質疑に応じることで正式発表として認められます。

【在席責任時間】

- ・ 在席責任時間は、奇数番号はセッション前半の 60 分、偶数番号はセッション後半の 60 分です。それぞれの在席責任時間中に、発表者の在席を確認します。なお、在席責任時間帯以外にも、できるだけ在席することが望まれます。

【その他】

- ・ 責任発表者がやむを得ない事情により欠席する場合、連名発表者が発表を代行することができます。発表取り消しについては、事前に大会準備委員会 (jspp34.2025@gmail.com) までご連絡ください。

2. 大会準備委員会企画・各種委員会企画・自主企画

- ・ 会場に発表資料投影用の機材（プロジェクター、スクリーン）を用意します。パソコンは発表者ご自身の PC をご使用ください。映像出力には HDMI がご利用いただけます。
- ・ 自主企画シンポジウムの時間は 120 分に設定されています。参加者による質疑応答の時間を確保するようご配慮ください。

ポスター発表（優秀大会発表賞候補者） 10月4日（土） 12：30 ～ 14：30 会場：202 演習室

在籍責任時間： 13：30 ～ 14：30

（○は発表者，# は非会員）

候補 1	競技レベルが高かった対人暴力被害者は現在も競技を継続している—被害経験に対する肯定的認知の媒介効果—	○ 豊田 隼 尾見 康博	東京大学・ 日本学術振興会 山梨大学
候補 2	Big Five パーソナリティと徒歩で暮らせるまちづくりの関連 —2020 年から 2023 年までの大規模縦断データを用いた地域レベルでの検討—	○ 澤田 奈々実 吉野 伸哉 小塩 真司	早稲田大学 公益財団法人医療科学 研究所 早稲田大学
候補 3	社会的地位と制御焦点の関連における自己愛の媒介効果の検討 —オンライン創作活動に着目して—	○ 有海 春輝 高橋 雄介	京都大学大学院 教育学研究科 京都大学大学院 教育学研究科
候補 4	感情的孤独及び社会的孤独の変化 ——2 年間の縦断的研究からの検討——	○ 古村 健太郎 相羽 美幸 菅原 大地 翠川 晴彦 櫛引 夏歩 白鳥 裕貴 川上 直秋 太刀川 弘和	弘前大学 # 東洋学園大学 # 筑波大学 # 筑波大学附属病院 # 弘前大学 # 筑波大学 # 筑波大学 # 筑波大学
候補 5	小中学生における Big Five パーソナリティ特性と学校 QOL の関連 —交差遅延パ ネルネットワーク分析を用いた検討—	○ 澤田 和輝 鈴木 美樹江 高橋 雄介	京都大学大学院教育学 研究科 愛知教育大学 京都大学
候補 6	血液型性格診断と MBTI （16personalities）に対する態度の比較 （3）—不思議現象に対する態度（78） —	○ 坂田 浩之 川上 正浩 小城 英子	大阪樟蔭女子大学 学芸学部 大阪樟蔭女子大学 学芸学部 聖心女子大学 現代教養学部

ポスター発表1 10月4日(土) 10:00 ~ 12:00 会場:202 演習室・204 演習室

在籍責任時間: 奇数番号(10:00 ~ 11:00) 偶数番号(11:00 ~ 12:00)

(○は発表者, # は非会員)

P1-1	恋はいつでもハリケーン (1) —エモフィリアを測定する尺度の因子構造—	○ 喜入 暁 谷口 あや 松本 昇	周南公立大学 三重大学 # 信州大学
P1-2	恋はいつでもハリケーン (2) —エモフィリアを測定する尺度の再検査信頼性および基準関連妥当性—	○ 谷口 あや 喜入 暁 松本 昇	三重大学教育学部 周南公立大学 # 信州大学
P1-3	プライム刺激に文章を用いた感情誤帰属手続きの有効性の検討 —ジェンダーステレオタイプを題材として—	○ 辻 絢加 中田 友貴 サトウ タツヤ	立命館大学院人間科学研究科 立命館大学総合心理学部 立命館大学総合心理学部
P1-4	シュワルツ基本価値観モデルの対極的価値観への着目—青年期の価値観確立層は対極的な2つの価値観を弁別する—	○ 片山 美由紀	東洋大学社会学部
P1-5	個人差研究における相関係数の集積的解釈の検討 —Weighted Contribution Index (WCI) の提案—	○ 三枝 高大 下司 忠大 松木 祐馬 吉野 伸哉	国際交流基金 立正大学 中部大学 公益財団法人医療科学研究所
P1-6	Social Appearance Anxiety Scale 短縮版 (SAAS-4) の作成 —日本語版作成を通じた検討—	○ 鈴木 公啓 矢澤 美香子 真覚 健 Trevor A. Hart	東京未来大学 武蔵野大学 # 仙台青葉学院大学 # Toronto Metropolitan University
P1-7	水族館来場および水族館動画視聴の心理的癒し効果の比較—大学生におけるPOMS-2 得点の前後比較—	○ 杉山 翠 渡邊 葉南 綾瀬 泉 村永 夏生 加藤 貴昭	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 # 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 # 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 # 慶應義塾大学環境情報学部 # 慶應義塾大学環境情報学部

P1-8	大人用の向社会的動機づけ尺度の作成 —確認的因子分析による因子構造の検討—	○ 横嶋 敬行 小野 挙 賀屋 育子 野口 太輔	信州大学 # 帝京学園短期大学 # こころとそだち研究会 中村学園大学
P1-9	心理的抵抗感に配慮した社会経済的地位 の測定法の検討—収入との関連からみた 代替指標の探索—	○ 中井 彩香 樋口 大樹 渡邊 直美 小林 哲生	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 # NTT コミュニケーション科学基礎研究所 # NTT コミュニケーション科学基礎研究所 # NTT コミュニケーション科学基礎研究所
P1-10	MMPI-3 による対人援助を志す大学生の パーソナリティ傾向 —総合経済学専攻 学生との比較から—	○ 渡邊 亮士 荒木 友希子	金城大学人間社会科学部／大阪大学大学院連 合小児発達学研究科 金沢大学人間社会研究 域人文学系
P1-11	心のダイナミズムを ZICE で捉えるため の課題と工夫—静的な活動体験に対する ZICE の応用可能性, その 2—	○ 後藤 龍太 五十嵐 麻希 山元 隆子 山下 温子 渡邊 智絵 平野 直己	岩見沢キャンブ心理学 研究会 岩見沢キャンブ心理学 研究会 岩見沢キャンブ心理学 研究会 岩見沢キャンブ心理学 研究会 岩見沢キャンブ心理学 研究会 岩見沢キャンブ心理学 研究会
P1-12	思春期から青年期前期の小中学生のパ ーソナリティプロフィール —自己肯定感 を高める介入的アプローチのための予備 的調査 (2) —	○ 加藤 仁 寺寫 裕登	北陸学院大学社会学部 # 名古屋大学教育基盤連 携本部
P1-13	就職活動中の学生の「できたこと日記」 と「ひとこと日記」の比較	○ 高野 ひかり 柳田 温子 佐藤 玄基 山本 弘樹 山口 美峰子 平野 真理	お茶の水女子大学大学 院 お茶の水女子大学 # NEC ソリューション イノベータ株式会社 # NEC ソリューション イノベータ株式会社 # NEC ソリューション イノベータ株式会社 お茶の水女子大学

P1-14	自己価値の随伴性の3領域が大学生活充実度、抑うつ・不安へ及ぼす影響プロセスの検討	○ 金子 功一	植草学園大学発達教育学部
P1-15	なりたくない自分との一致と社会的比較が自己受容に及ぼす影響	○ 能渡 綾菜 望月 聡	筑波大学大学院人間総合科学研究科 法政大学現代福祉学部
P1-16	大学生のストレスマインドセットの類型と精神的健康との関連	○ 劉 艶艶 齊藤 彩 松本 聡子 吉武 尚美 菅原 ますみ	お茶の水女子大学教学IRセンター お茶の水女子大学 # お茶の水女子大学 順天堂大学 白百合女子大学
P1-17	発達段階と性別によるアイデンティティの個人差 —成人形成期から中年期にかけての横断的検討—	○ 董 雨キ 畑野 快	大阪公立大学現代システム科学科 大阪公立大学現代システム科学科
P1-18	若年成人における仕事アイデンティティの類型とその関連要因 —1年間の短期縦断調査による検討—	○ 畑野 快 日原 尚吾 杉村 和美 池田 めぐみ 田中 聡 中原 淳	大阪公立大学 # 松山大学 # 広島大学 # 筑波大学 # 立教大学 # 立教大学
P1-19	大学生におけるアイデンティティの時間的統合のダイナミクス —過去自己連続性と将来領域の探求・コミットメントの経時的関係—	○ 浅山 慧 外山 美樹	筑波大学 筑波大学
P1-20	パーソナリティ・ニュアンスとBMIの関連に関する検討 —Elastic Net 回帰による分析—	○ 岡本 茉莉 小塩 真司	早稲田大学文学研究科 早稲田大学文学学術院
P1-21	疑似科学的健康言説の受容とその心理的要因の検討 —陰謀論心性・インターネット依存傾向との関連—	○ 谷 伊織 加納 安彦	愛知学院大学心理学部 # 名古屋大学環境医学研究所
P1-22	非緩和共同性の男女差とジェンダー・ギャップ指数との関連 —都道府県別データを用いたジェンダー・パラドックスの検討—	○ 萩原 千晶 小塩 真司	和洋女子大学 早稲田大学
P1-23	メンタライズされた感情認識尺度日本語版の妥当性の検討 —Big Five Personality および Social Skill の観点から—	○ 馬場 天信	追手門学院大学心理学部

ポスター発表2 10月4日(土) 12:30 ~ 14:30 会場:204 演習室

在籍責任時間: 奇数番号(12:30 ~ 13:30) 偶数番号(13:30 ~ 14:30)

(○は発表者, # は非会員)

P2-1	血液型性格診断と MBTI (16personalities) に対する態度の比較 (2)	○ 小城 英子 坂田 浩之 川上 正浩	聖心女子大学 大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学
P2-2	ゲームフル体験質問紙日本語版開発の試 み	○ 山本 晃輔 曾我 千亜紀 Menant Julien	法政大学理工学部 # 大阪産業大学 # 大阪公立大学
P2-3	推し活依存傾向尺度の信頼性・妥当性の 検討	○ 山岡 重行	聖徳大学心理・福祉 学部心理学科
P2-4	ゲーム行動の動機づけ尺度に関する予備 的検討 ―自己決定理論を基盤として―	○ 海野 利文 小塩 真司	早稲田大学大学院 文学研究科 早稲田大学文学学術 院
P2-5	建造環境によって地域レベルのパーソナ リティ特性に分散は生じるのか ―ウォ ーカビリティに着目したメタ分析―	○ 吉野 伸哉 小塩 真司	公益財団法人医療科 学研究所 早稲田大学
P2-6	日本人の外向性は行動指標においても低 下している	○ 秋元 涼之介 荻原 祐二	東京大学人文社会系 研究科 青山学院大学教育人 間科学部
P2-7	外国人受け入れにおける学生の「抑圧的 寛容」の傾向 ―「文化」の使用例から の考察	○ 相原 征代 後藤 和史	北陸大学国際コミュ ニケーション学部 北陸大学国際コミュ ニケーション学部
P2-8	他人軸特性尺度の作成の試み ―Beck ら(1983)の Sociotropy の概念に着目して ―	○ 木川 智美	名古屋産業大学
P2-9	刑事司法に対する態度および犯罪不安の 都道府県差―犯罪認知件数とジニ係数を 含めたマルチレベル分析―	○ 向井 智哉	福山大学
P2-10	Dark Triad のうち最も「ダーク」とみな されるのはどれか―社会的望ましさの認 知, 個人的望ましさの検討―	○ 上田 皐介 山形 伸二	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科, 日本学術振興会 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科

- | | | | |
|-------|--|-------------------|---------------------------------------|
| P2-11 | 能動的・受動的な最小相互作用尺度の作成 —因子の妥当性の検証— | ○ 平島 太郎
五十嵐 祐 | 愛知淑徳大学心理学部
名古屋大学大学院
教育発達科学研究科 |
| P2-12 | 漫画の恋愛はリアル？ —恋愛関係における行動の左右差の傾向— | ○ 水戸 有希 | 法政大学大学院人文科学研究科 |
| P2-13 | 職場いじめ被害時の援助要請の阻害要因に関する探索的検討 | ○ 井上 由美子
水野 雅之 | 筑波大学大学院
筑波大学人間系 |
| P2-14 | 母親の不適切な被養育経験と被害的認知に対する育児ソーシャル・サポートの調整効果 | ○ 臼倉 瞳 | 東北学院大学人間科学部 |
| P2-15 | 幼児の向社会的行動における評価方法の検討—教諭による向社会的行動評価と援助行動アセスメントとの関連から— | ○ 内山 有美 | 鳴門教育大学 |

P3-1	文化的自己観と精神的健康の関連 (1) —自尊感情と主観的ウェルビーイングと の関連—	○ 陸 英善 松田 英子	金沢大学大学院人間社 会環境研究科 東洋大学社会学部
P3-2	文化的自己観と精神的健康の関連 (2) —精神的不調と睡眠の不調との関連—	○ 松田 英子 陸 英善	東洋大学社会学部 金沢大学大学院人間社 会環境研究科
P3-3	知性が高いロボットはポジティブに評価 されるのか?—ロボットへの評価におけ る個人特性の影響—	○ 山田 幸恵 松本 明人	東海大学文化社会学部 # さいたま市南部児童相 談所
P3-4	本邦における「合理的配慮」研究の動向 —学術タイトルのテキストマイニング—	○ 阿部 真吾 劔持 裕紀 石田 航	いたばし心理相談室 # 帝京大学学生カウンセ リングルーム # 国際医療福祉大学心理 学科
P3-5	Dark Triad が人生満足度に及ぼす影響— 性別との交互作用に着目して—	○ 屋田 拓臣 谷 伊織	愛知学院大学大学院 心身科学研究科 愛知学院大学
P3-6	自由意志信念は向社会的行動・判断と関 連するのか?—自由意志信念の操作方 法・主体・対象に着目したシステマティ ックレビュー—	○ 稲田 祝有 吉良 悠吾	久留米大学大学院 心理学研究科 # 久留米大学
P3-7	死後の世界を信じる若者が幸せな理由 (4)—情報処理スタイルと公正世界信念 の包括的媒介モデルの検討—	○ 向居 暁 中本 朋花	県立広島大学地域創生 学部 # 戸田建設
P3-8	裏切り者検知能力は関係流動性で説明で きるか?	○ 小田 亮	名古屋工業大学大学院 工学研究科
P3-9	人物写真の性別と提示時間がドット・プ ローブ課題の反応時間に及ぼす影響	○ 富島 大樹 石井 国雄 田戸岡 好香	川村学園女子大学文学 部 東京家政大学人文学部 # 高崎経済大学地域政策 学部
P3-10	「推し」を秘匿したいファンの心理	○ 横井 絢香 小城 英子	聖心女子大学 聖心女子大学

P3-11	情動コンピテンスは世帯収入と人生満足度の関連を調整するか?	○ 西野 有美 張 蕾 有海 春輝 高橋 雄介	京都大学教育学研究科 # 京都大学教育学研究科 京都大学教育学研究科 京都大学教育学研究科
P3-12	勤務中のインターネット私用の建設的効果 —仕事の先延ばし尺度とテレワークに着目した探索的検討—	○ 黒住 嶺 伊達 洋駆	株式会社ビジネスリサーチラボ # 株式会社ビジネスリサーチラボ
P3-13	恥意識が鉄道利用に伴う向社会的行動および迷惑行為の促進・抑制に及ぼす影響 — 仲間との不一致に起因する恥意識は向社会的行動を抑制し、迷惑行為を促進するのか —	○ 中村 真	江戸川大学社会学部
P3-14	組織コミットメントと職務満足感、情緒的消耗感、離職意向との関連	○ 閻 琳	美作大学
P3-15	心理学が平和のためにできること（５） —エクスポージャーと共感性が平和への態度に及ぼす影響—	○ 友田 貴子	淑徳大学人文学部
P3-16	大学生における国際協力活動の促進要因の検討—計画的行動理論に基づいたモデルの検証—	○ 大久保 智生 荒井 崇史 鈴木 修斗	香川大学 # 東北大学 日本学術振興会・北海道大学大学院
P3-17	集団凝集性に着目した仮想空間及び対面でのディベートの比較	○ 藤澤 文	鎌倉女子大学
P3-18	見捨てられ不安と親密性の回避が孤独感に与える影響 —性別による違いに注目して—	○ 富井 繭 小塩 真司	早稲田大学文学研究科 早稲田大学文学学術院
P3-19	非緩和共同性と対人ストレスの関連 —セルフコントロールも含めての検討—	○ 橋本 剛	静岡大学人文社会科学部
P3-20	恋愛関係への移行が青年の心理特性に及ぼす社会化効果の検討 —半年間の縦断データに基づいて—	○ 古谷 かすみ 高野 恵代 坂田 陽子 久保 南海子	愛知淑徳大学大学院 心理医療科学研究科 愛知淑徳大学心理学部 # 愛知淑徳大学心理学部 # 愛知淑徳大学心理学部
P3-21	顕在・潜在的自尊心と相手に応じたパーソナルスペース調整の柔軟性—親しさの異なる他者との距離の差に注目して—	○ 大浦 真一	東海学院大学人間関係学部

P3-22	出会いの手段としてのマッチングアプリ —恋愛価値観とアプリの種類に着目して—	○ 井川 純一 桑原 慶人	東北学院大学 # 東北学院大学大学院
P3-23	大学生における情緒的信頼と認知的信頼 の検討	○ 忠内 朝子	東洋大学大学院総合情報学研究科
P3-24	間接的要求の受諾・拒否に及ぼす受け手の 感覚感受性の影響	○ 増井 啓太 山本 美桜	追手門学院大学心理学部 # 追手門学院大学心理学部
P3-25	相手との親密度と酒席における自己開示 規範のパターンが自己開示後の感情に及 ぼす影響	○ 山下 倫実	十文字学園女子大学
P3-26	制御焦点が大学生の対人行動に及ぼす影 響 —制御適合の観点から—	○ 小島 弥生	北陸大学国際コミュニケーション学部
P3-27	逆境的小児体験と Dark Triad が愛着スタ イルに与える影響	○ 太田 仁	奈良大学社会学部
P3-28	嘘をつくときに経験する内的過程の個人 内変動—深刻な嘘と軽微な嘘の比較—	○ 佐藤 拓 太幡 直也	明星大学心理学部 愛知学院大学総合政策学部
P3-29	告白時の年齢による告白相手に対する魅 力認知の比較	○ 高坂 康雅	和光大学現代人間学部
P3-30	日本のパーソナリティ研究は何を扱って きたか—「パーソナリティ研究」誌にお けるキーワードの分析（1993-2024）—	○ 下司 忠大 萩原 千晶 橋本 泰央 松木 祐馬 三枝 高大 上野 雄己 吉野 伸哉 小塩 真司	立正大学心理学部 和洋女子大学 東北文教大学 中部大学 国際交流基金 東京大学 医療科学研究所 早稲田大学

ポスター発表4 10月5日(日) 9:30 ~ 11:30 会場:202 演習室・204 演習室

在籍責任時間: 奇数番号(9:30 ~ 10:30) 偶数番号(10:30 ~ 11:30)

(○は発表者, # は非会員)

P4-1	大学教員が抱えるストレスの実態調査(1) —自由記述データの質的分析—	○ 河越 隼人 渡邊 ひとみ 稲垣 勉	帝塚山大学心理学部 高知大学 京都外国語大学
P4-2	大学教員が抱えるストレスの実態調査(2) —大学教員ストレス尺度の作成の試み—	○ 渡邊 ひとみ 稲垣 勉 河越 隼人	高知大学人文社会科学部 京都外国語大学 帝塚山大学
P4-3	オンラインカウンセリングにおけるクライアントの治療期待とセラピストの対応効力感のマッチングによる初期ドロップアウトの予測	○ 桂川 泰典 原田 陸 高橋 恵理子	早稲田大学 # 株式会社 cotree # 明星大学
P4-4	自己決定性に基づいて完全主義を測定する尺度の作成—自己決定理論を導入した新たな完全主義モデルの提案—	○ 坪田 祐基	愛知淑徳大学健康医療科学部
P4-5	Positive Solitude は状態孤独感を和らげるのか?—不適応的パーソナリティ特性がもたらす個人差に着目して—	○ 櫛引 夏歩 矢口 知絵 菅原 大地 相羽 美幸 白鳥 裕貴 川上 直秋 太刀川 弘和	弘前大学 # 筑波大学, 茨城県こころの医療センター # 筑波大学 # 東洋学園大学 # 筑波大学 # 筑波大学 # 筑波大学
P4-6	強迫傾向における素因ストレスモデルによる検討	○ 清水 健司 清水 寿代	広島国際大学 広島大学大学院
P4-7	わが国におけるトラウマインフォームドケア研究の動向と変遷—当事者視点から支援者視点への転換に着目して—	○ 井出 百合菜 石田 航	国際医療福祉大学大学院臨床心理学専攻 # 国際医療福祉大学心理学科
P4-8	推し活の頻度を測定する尺度の開発 その2—その妥当性の検討—	○ 中谷 智美 福井 義一	名古屋産業大学 甲南大学
P4-9	高校生における専門家への援助要請行動について—スティグマに着目して—	○ 川本 静香	京都精華大学共通教育機構

P4-10	Social Appearance Anxiety と精神的健康, 外見に関わる心理変数との関連—Social Appearance Anxiety Scale 短縮版 (SAAS-4)を用いて—	○ 矢澤 美香子 鈴木 公啓 真覚 健 Trevor A. Hart	# #	武蔵野大学人間科学部 東京未来大学 仙台青葉学院大学 Toronto Metropolitan University
P4-11	「虐待された記憶」は愛着スタイルの影響を受けるのか? —回顧的な被虐待経験と愛着スタイルによる交差遅延効果モデルの検討—	○ 中井 (松尾) 和 弥 大浦 真一		神戸松蔭大学 東海学院大学
P4-12	コミュニケーションスタイルの違いが不安に及ぼす影響—顔が見えるか見えないかはどう影響するのか—	○ 北原 輝人 山田 幸恵		東海大学大学院文学研究科 東海大学文化社会学部
P4-13	特性的楽観性と軽躁傾向の関連—双極スペクトラムによる観点からの検討—	○ 渡辺 将成 大森 正英 藤岡 孝志 堅田 明義	# # #	中部学院大学大学院人間福祉学研究所 中部学院大学 中部学院大学 中部学院大学
P4-14	アレキシサイミアとアサーティブネスの関係—下位尺度を再構成した TAS-20 を用いて—	○ 小鹿 真嗣		東海学院大学大学院付属心理臨床センター
P4-15	メンタライジングと抑うつ・不安症状の関連における曖昧さへの態度の調整効果	○ 榎木 宏之 甲田 宗良	#	広島国際大学健康科学部心理学科 徳島大学大学院社会産業理工学研究部社会総合科学域人間科学系心理学分野
P4-16	鮮明性測定尺度回答時に生じる聴覚のイメージ体験と鮮明性測定値の関連の検討	○ 福井 晴那		立正大学心理学部
P4-17	防衛的悲観主義者は楽観的? —スポーツ指導者を対象とした検討—	○ 木村 駿介 嘉瀬 貴祥 矢野 康介		静岡産業大学スポーツ科学部 人間環境大学総合心理学部 筑波大学人間系
P4-18	幸せの形はひとつじゃない —人生満足度を規定する要因の個性記述的検討—	○ 山形 伸二		名古屋大学
P4-19	予期ノスタルジアと自己成長—未来展望を考慮して—	○ 長峯 聖人 千島 雄太	#	江戸川大学 筑波大学

P4-20	完全主義と幸福追求傾向が幸福感に与える影響—「ミスへのとらわれ」の調整効果に注目して—	○ 中津 美月 山口 正寛	大阪教育大学大学院 教育学研究科 大阪教育大学
P4-21	新旧の「蛙化現象」体験に影響する性格特性や感情に関する研究	○ 高橋 誠	神奈川大学人間科学部
P4-22	泣きの信念と精神的健康との関連—泣くことはストレス制御方略として有効か？—	○ 白井 真理子 加藤 樹里	信州大学人文学部 # 金沢工業大学
P4-23	不安感受性を測定する日本語版 ASI-3 の改訂 その 1—因子的妥当性と信頼性の検討—	○ 福井 義一 中谷 智美	甲南大学文学部 名古屋産業大学現代ビジネス学部
P4-24	未来不安が未来イベントへの不安を予測する効果—特性不安を統制した検討—	○ 張 澤 楊 帆 堀内 孝	岡山大学大学院社会文化科学研究科 早稲田大学文学学術院 岡山大学学術研究院 社会文化科学学域
P4-25	不安は手を広げ、抑うつは足を止める—抑うつと不安が代替目標への評価に与える影響—	○ 服部 陽介	大手前大学
P4-26	人はどのようなときに後悔を糧にするのか—結果後悔，プロセス後悔の調節メカニズムの検討—	○ 伊藤 拓	名古屋大学心の発達支援研究実践センター
P4-27	鉄道ファンによる迷惑行為の認識についての予備的研究—鉄道趣味者と非趣味者の比較—	○ 岡田 努	金沢大学人文学系
P4-28	デートバイオレンス・ハラスメントにおける合理化尺度の作成—DV 認知・通報との関連の検討—	○ 岸川 礼依 越智 啓太	法政大学大学院人文科学研究科心理学専攻 法政大学
P4-29	対人目標への介入が自己愛傾向者の日常的な心理的適応に及ぼす影響	○ 小林 茉那 瀬戸 正弘	神奈川大学人間科学部 神奈川大学人間科学部

ポスター発表5 10月5日(日) 12:00 ~ 14:00 会場:202 演習室・204 演習室

在籍責任時間: 奇数番号(12:00 ~ 13:00) 偶数番号(13:00 ~ 14:00)

(○は発表者, # は非会員)

P5-1	アスリートが痛みに耐える心理的背景を 探る—自己調整の観点から—	○ 尾見 康博 小山 勝弘 豊田 隼 小野田 亮介 渡邊 耀介	山梨大学 # 山梨学院大学 東京大学 # 山梨大学 # 山梨トヨペット株式 会社
P5-2	成人における生活史戦略の発達 —8 時 点にわたる縦断調査データによる分析—	○ 川本 哲也	慶應義塾大学文学部
P5-3	年齢ごとの子どものパーソナリティ表現 用語の違い	○ 橋本 泰央 白取 真実 小塩 真司	東北文教大学 # 目白大学 早稲田大学
P5-4	就業者の主観的生産性とその促進要因の 発達的变化	○ 市川 玲子 鈴木 美穂 秋富 穰	NEC ソリューション イノベータ株式会社 # NEC ソリューション イノベータ株式会社 # NEC ソリューション イノベータ株式会社
P5-5	学業的達成目標と社会的達成目標の関係 性—メタ分析を用いた検討—	○ 海沼 亮	松本大学教育学部
P5-6	ストレスと認知的評価およびコーピング の関係—先行研究の整理・検討を通して —	○ 岡谷 ゆい	名古屋葵大学
P5-7	逆境的小児期体験と精神病理の関連に関 するメタ分析	○ 飯塚 喜久乃 高橋 雄介	京都大学 京都大学
P5-8	保護者の援助要請支援志向が子どもの学 校適応に及ぼす影響—小学生から高校生 を対象にした横断的調査による検討—	○ 解良 優基 林 亜希恵	南山大学人文学部 # 福井大学
P5-9	育児ストレスに対する親子気質タイプの 比較分析 —気質的な「適合の良さ」に 着目—	○ 連 傑濤 孫 怡 矢藤 優子	立命館大学 OIC 総合 研究機構 立命館アジア・日本 研究機構 立命館大学総合心理 学部

P5-10	ながらスマホ育児が幼児の社会性に及ぼす影響—3波パネル調査による幼児のインターネット利用時間の媒介効果の検討—	○ 松尾 由美	江戸川大学メディアコミュニケーション学部
P5-11	青年の「むなしさ」体験による肯定的変化のプロセス	○ 篠田 直子 鳥居 真侑	信州大学学術研究院教育学系 # 医療法人和心会 松南病院
P5-12	首尾一貫感覚と批判的思考態度の因果的関係の検討—心理教育的介入への応用可能性に向けて—	○ 嘉瀬 貴祥 磯和 壮太郎	人間環境大学 名古屋芸術大学
P5-13	比喩表現と辞書的定義の作成を通じた記憶観の検討—特徴語を用いた比較—	○ 富高 智成 中田 英利子 向居 暁 田畑 慶人	京都医療科学大学 # 佛教大学 県立広島大学 # 京都医療科学大学
P5-14	援助要請の方法を捉えるための尺度の作成	○ 永井 智	立正大学
P5-15	大学において認識的信頼と帰属感の形成を促進する要因 (2) — 大学において帰属感の形成を促進する要因 —	○ 川上 正浩 坂田 浩之 佐久田 祐子 奥田 亮	大阪樟蔭女子大学学芸学部 大阪樟蔭女子大学学芸学部 # 大阪樟蔭女子大学学芸学部 大阪樟蔭女子大学学芸学部
P5-16	学校教員の心理的職務状態の潜在クラス遷移に関する検討——学校組織風土による変動効果——	○ 磯和 壮太郎	名古屋芸術大学教育学部
P5-17	AI との共創—生成 AI の提示タイミングと知的謙虚さが創造性に与える影響—	○ 外山 美樹 佐藤 孝太	筑波大学 # 筑波大学心理学類
P5-18	大学生における授業中のメモの取り方と学修成果の関連—学習意欲を統制して—	○ 太幡 直也 西川 さくら	愛知学院大学総合政策学部 # 愛知学院大学総合政策学部
P5-19	高校生のメンタルヘルスリテラシーが抑うつ傾向に及ぼす間接的效果—家族・学校からのソーシャル・サポートとの関連から—	○ 田中 麻未 高橋 雄介	帝京大学 京都大学

P5-20	個別指導塾における講師の教育行動が中高生の学習意欲に与える影響	○ 江頭 結衣 吉良 悠吾	社会福祉法人 風と虹 筑後いずみ園 久留米大学 文学部
P5-21	保護者が期待する小学1年生の適応と成長—学校生活への安心感を高めるプログラムの開発に向けて—	○ 本間 優子 板垣 彩	新潟青陵大学福祉心理子ども学部 # 青森県総合学校教育センター
P5-22	防犯ボランティアにおける心理的健康と参加意図に関する縦断的検討—特性レベルの動機づけと状況レベルの充足感の関連に着目して—	○ 赤松 大輔 水野 君平 大久保 智生	京都教育大学 北海道教育大学旭川校 香川大学
P5-23	Big Five と複数の成績指標との関連	○ 松木 祐馬 山内 星子 田中 秀紀 堀 匡	中部大学 # 中部大学 # 中部大学 # 中部大学
P5-24	英語への潜在的な態度は何と関連するのか	○ 三和 秀平 青山 拓実 小倉 光明	信州大学教育学部 # 明治大学 # 信州大学
P5-25	情報プライバシーが FemTech アプリ利用における プライバシーポリシーの理解およびプライバシー懸念に及ぼす影響	○ 佐藤 広英 太幡 直也 金森 祥子	信州大学／情報通信研究機構 愛知学院大学／情報通信研究機構 # 情報通信研究機構